

校歌 「帝塚山学園の歌」

森 磯吉 作詩
川澄 健一 作曲

一、新しき 世紀の光 身にあびて

すこやかに のびゆくわれら

民主日本を 背負い立つ

われも一人ぞ

ときわ木の 正しく 清く

たくましく

若人の希望(のぞみ) あふるる

おお われら 帝塚山学園

二、古の 都の跡を 偲びつつ

学び舎に いそしむわれら

文化日本を 築くべき

われも一人ぞ

咲く花の 匂うが如く

うるわしく

いと高き理想(のぞみ) 輝く

ああ われら 帝塚山学園

祝歌 「茜雲」

小野十三郎 作詩
細谷 清澄 作曲

一、茜雲 清らかに

水面にうつり

流れゆく 歳月(としつき)

野に鳥は 強く羽ばたき

いくたびか ことほぎ歌いし

友の門出

ああ 帝塚山 白亜の学園

永遠にかわらぬ 心の故郷

二、松風は さわやかに

丘辺をわたり

遥なり わが道

噴水(ふきあげは) 高くあがりて

あしたまた ことほぎ歌わん

友の門出

ああ 帝塚山 平和の学園

永遠にかわらぬ 心の故郷

応援歌

金井 英隆 作詩
細谷 清澄 作曲

一、灼熱の日も 極寒も

紅もゆる 血潮もて

夢引き結ぶ 学び舎に

鍛え鍛えし この腕を

示すは今ぞ この時ぞ

おお 帝高(帝中) 力あり

二、嵐吹くとも 地揺らぐとも

常盤緑の 松の根に

相寄り睦む 友垣の

練りに練りたる この技を

示すは今ぞ この時ぞ

おお 帝高(帝中) 光あり

三、雲紫の 奈良の地に

自由の野辺に 三春秋

久遠の真理 求めつつ

倦まず励める この生命

示すは今ぞ この時ぞ

おお 帝高(帝中) 正義あり